

## 第三者認証 GAP に取り組んでみませんか？

GAPとは、Good (良い) Agricultural (農業の) Practice(行い) の略語で、農業生産工程管理と訳され、食の安全性などを確保することが目的です。

具体的には、生産の現場において、食品の安全確保、環境の保全、労働の安全などの観点から、安全に農業生産を実施するための管理ポイントを整理し、それを記録、検証して、より良い農業生産を行うことです。

このようなことは、実は農業者の多くの方が日頃当たり前のように行っている作業です。管理項目を明確化し、意識的に取り組み、記録することでGAPとなっていきます。

相馬地方では、平成29年から徐々に第三者認証GAPに取り組む生産者が増えてきています。今回、2組の生産者の取り組みをご紹介します。みなさんも、ぜひ、取り組んでみませんか？

### (株)紅梅夢ファーム【FGAP及びJGAP(米)】

【GAPに取り組んだきっかけ】原子力災害以降、風評被害がある中で、より安心・安全な農産物を消費者の皆さんにお届けしたいと思い、取り組むこととしました。常日頃から、すべての管理を見える化することで、社員全体でリスク管理の意識を共有しています。さらに、GAPを地域農業に波及させたいと考えました。



【GAPの効果】農薬、肥料の保管庫を設置して管理することで、整理整頓、在庫管理が容易になりました。さらに、燃料保管庫と農具庫を分けたことで、安全に管理ができるようになるとともに、生産管理も考えながら対応できるようになりました。また、社員全体のリスク回避のための意識が高くなってきたと感じています。

【今後の取組】現在は、FGAPもJGAPも米だけ、しかも玄米のみで取得しています。今後、令和3年9月稼働予定のライスセンターが出来た段階で「精米」として、改めて認証を受けたいと考えています。将来は、他の農産物での認証も検討しています。

### 大渡農園(大渡和公さん)【FGAP(青果物・アスパラガス)】

【GAPに取り組んだきっかけ】平成29年に県が開催したGAPセミナーと福島大学で開催されたセミナーで興味を持ち、GAPに取り組むことにしました。

【GAPの効果】農場や経営に関する意識(農薬安全使用や労働安全)が向上しました。また、将来の経営について考えるようになりました。



【今後の取組】経営を更に安定させて、安心・安全な農作物の出荷を続けていきたいと考えています。販路の拡大など、色々なことにチャレンジして、楽しんで経営をしていきたいと思っています。

## 福、笑い。現地実証について

「福、笑い」は、令和3年に本格販売予定の福島県水稲オリジナル新品種です。

福島県では、品質と食味が優れる水稲品種の開発を目指し、平成18年に「コシヒカリ」の血を引く「新潟88号」を母、「ひとめぼれ」の血を引く福島県育成系統「郡系627」を父として交配し、品質及び食味の確認を繰り返してきました。

令和元年5月31日に奨励品種への採用が決定し、令和2年度は、県内13箇所では現地実証ほが設置されています。

「福、笑い」という名称は、福島県クリエイティブディレクターである箭内道彦氏をはじめとする外部有識者によりアドバイザーチームを編成、6,000点を超える応募があった名称案を専門分野の視点で検討し、「生産者にも消費者にも笑顔が訪れるような米になってほしい」との願いを込めて決定しました。

「福、笑い」は、草丈が短く倒れにくい、いもち病にかかりにくいなど栽培しやすく、収量は「コシヒカリ」並〜やや優ります。

また、米粒は大粒で強い甘みと香りを持ち、やわらかめに炊きあがり、食味は「コシヒカリ」並との評価を得ています。

相双農林事務所管内においても、現地実証ほ(1箇所)を南相馬市内に設置し、相馬地方での現地適応性等について検討しています。

※「福、笑い」は生産者登録制となっており、作付けには認証GAPの取得をはじめ、いくつかの要件があります。



「福、笑い」現地実証ほ

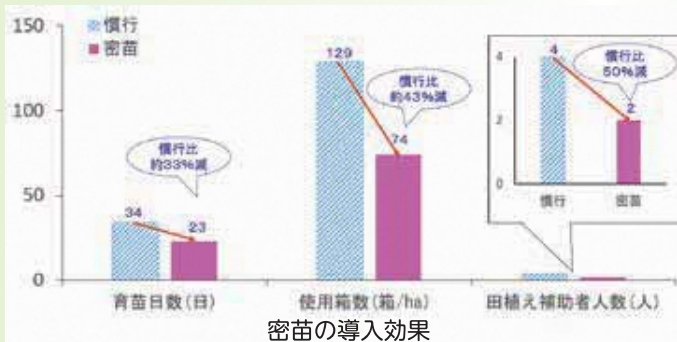
## スマート農業技術の実証について

今年度から南相馬市小高区の(株)飯崎生産組合では、営農再開支援事業(先端技術等を活用した大規模な営農再開拠点構築に向けた支援)を活用して、スマート農業技術等の実証に取り組んでいます。

(株)飯崎生産組合が中心となり、農機具メーカーや関係機関・団体等とコンソーシアムを設立し、密苗、GNSS(GPS等の衛星測位システムの総称)ガイダンス・自動操舵システム、ドローンを活用した作物の生育診断や肥料・農薬の散布、自動水管理システムなどの導入による栽培技術のスマート化及び作業記録等の電子化による経営のスマート化により、経営規模の拡大に向けた技術を実証しています。

導入した技術の一部では、すでに一定の導入効果が実証されており、継続してスマート農業の導入効果を検証していきます。

今後導入予定のRTK-GPS(地上基地局からの補正による高精度のGPS)やロボットトラクター、GPSレベラーなどの機械・技術においてもその導入効果が期待されます。



GNSSガイダンス・自動操舵システムによる大豆播種及び明きょ施工の様子





## 相馬地方農産物直売所連絡協議会夏野菜合同直売会が開催されました

6月28日に、常磐自動車道・南相馬鹿島サービスエリアの拠点施設「セドッテかしま」で、相馬地方農産物直売所連絡協議会が主催する「夏野菜合同直売会」が開催されました。

イベントには、協議会に加盟する地元直売所5店が参加し、地元産の旬の野菜や、こだわりの農産加工品を販売しました。当日は曇天にもかかわらず、多くの買い物客が相馬地方の旬の味覚を求めて訪れました。

この合同直売会は平成28年、東日本大震災からの復興と農産物の風評払拭を目的に始まり、以降年1回開催され、今年で5回目の開催となりました。協議会の今野秀幸会長は、「新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、家庭での食事に関心が高まっている。みんなで相馬地方産の農産物を食べて元気になりましょう。」と語られました。



### 相馬地方農産物直売所連絡協議会について

相馬地方直売所連絡協議会は、「あぐりや」(新地町)、「ふれあい旬のひろば」(相馬市)、「四季彩」(南相馬市鹿島区)、「旬のひろば」(南相馬市原町区)、「いととんぼ」(南相馬市原町区)の5つの直売所で構成され、相馬地方の農業振興のため、合同イベントや講習会の開催などの活動を展開しています。

## 令和2年産米の放射性物質検査について

県では、令和元年産米まで全ての米を対象に全量全袋検査を実施し、安全性を確認してきました。放射性物質の吸収を抑制するカリウムの追加施用などを徹底した結果、平成27年以降、通算5年間基準値超過がありませんでした。そのため、令和2年産米では、避難指示等のあった12市町村を除き、全量全袋検査からモニタリング検査に移行することとしました。

相馬地方では、相馬市、新地町がモニタリング検査へ移行し、南相馬市、飯館村は全量全袋検査を継続します。

米のモニタリング検査は、相馬市、新地町の旧市町村毎に玄米3点を検査します。

基準値超過が無く安全が確認されてから、旧市町村毎に出荷販売が可能となります。ただし、50Bq/kgを超えた場合は検査点数を増やし安全を確認します。

モニタリング検査により安全が確認されるまでは、無償譲渡を含み、出荷販売は控えるようお願いします(JAや集荷業者への移動は可能です)。

南相馬市、飯館村産米は従来どおり全量全袋検査を継続しますので、ご協力をお願いします。なお、相馬市の農業者が南相馬市の水田で生産した米も全量全袋検査の対象となりますので注意してください。

### 【旧市町村の区分】

- 相馬市：中村町、大野村、飯豊村、山上村、玉野村、磯部村、日立木村、八幡村
- 新地町：新地村、福田村、駒ヶ嶺村

## 農薬の安全使用について

相馬地方において、強風により農薬が隣接する畑に飛散する事例が発生しました。

**農薬はラベル(適用作物、使用方法、使用時期、使用回数等)の内容を厳守し、飛散防止対策を講じることや防除機器の洗浄等を徹底した上で適切な作業を心がけましょう!**

万が一、出荷中に農薬の不適正使用が発生した場合は、**ただちに一旦出荷を停止し**、至急下記の窓口までご連絡下さい。

【窓口】 相双農林事務所農業振興普及部 経営支援課：0244-26-1151